

報龍屋新聞

報龍屋新聞社
〒299-2854 鴨川市伏見三
〇四七〇九二九三
電話 〇二六〇一〇二九三
編集 〇二六〇一〇二九三

社主とすれ違ったら
読むカレと忘れな
よりにしよう。
随仙の教え」
欲にかられ、好みに
らわれている人は、ど
自分の偏見と想える
こそが、できるだろ
中村可談

臥蛇島が生まし
よみがえる

南風語り 第二回

鹿野島市
〇 神島
臥蛇 平
スウ
増村 (トカ)
電美市

〔東京梅ヶ丘第一スタジオ〕

五月下旬には肌寒い日、小雨も降、
なかとオセーの夕ぐれが来まてくれた。

何としかといふと、社主の南風語り
である。三十九年前に無人島になった臥
蛇島は今もまきこいよ、の一念ご筆を

とる社主の語りには時間では風化は
島の知恵がうかえた。「国家内国家

ともいえる、島の半当金制度は、国と
いつかとはめられながら、何とか活か

し続けようとする島の自主が存分

に主張されていた。おしよりのかたくな
すが、無人島への道と歩ませたのだが、

話はこのままだとは終らない。激しい降
ど無人にならなくなった諏訪之瀬島は

十数年前の後に、南風を受け入れて
有人化をめた。臥蛇島といかにして

有人化させるか、今後の問題を考え
提起がなされたのが、本回の南風語

である。
語りの後の交流会と称する飲み会

が一無庵が開かれ、まかであった。

於ギャラリー・ガラ(梅ヶ丘)

南風語り 第二回



一無庵とは、ガラの近くにあり居酒屋
のことで、我々の交流会のために赤字
を出している店である。

PHOTO (トカ) 中村可談 2009. 5. 23.

左からアトム・村崎修ニ・社主 2007.10.



PHOTO KENITI, ARATAWA 於向峠

< 今秋 >

「道々の芸」が南の島々へ

周防の猿曳チ・猿舞座と

尾州のカゴ屋のシヨイン公侯

が、この秋にも再会される。

写真に載る共、夏は山口県岩国

市(旧・錦町・云瀬)と島根県(三田市

との境にある向峠(むかたお)で行は

れた。その集落の鎮守さまである

剣霊神社の祭礼で奉納された。

主人公のアトムとその使い手である

村崎修ニ、それと本社社主が演

▽ お猿とカゴ屋で

ホイサツサ

▽

じた。象図はかわりにアトムに集まり、カゴ屋のワザはさびしいものだった。

しかし、アトムのおかげで、投げ銭の分

け前はオドロクほど多かった。

△ △ △

秋の夕テ場はトカラ・奄美大島の

島々である。日程は追えてお知

らせます。この期待を

社 告

オミ回「オオの南国語り」

題「平島放送速記録」を讀む

語り手 本社社主シキジキ

場所 小田急線に乗って梅ヶ丘

下車。トホ一分半。ギャリ、女

日時 七月(土)午後三時~四時半

入場無料 投げ銭もバカデ

2007.10.



PHOTO 荒川健一 於向峠(むかたお)

平島・ハエハマ港 沖に悪石島が

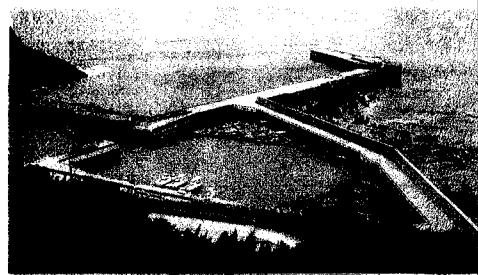


PHOTO 稲垣 涼 2008.6.4(5).

三四年前の序文は
生まれている

——島に訪ねてきたひとりの民俗採集者
者が、古老に向て開口一番、

「おいさん、五〇年前の島の様子を
語ってくださいませんか?」と要求した。

この人が「こういふ採集手法をとら
自分の時代を記録して、五〇年後

『平島放送速記録』

の人に見せれば同じことになる。それと
ころか、おぼろげな記憶を頼りに、五〇
年前を記録するより、まぎれもない「ま
を重ね書き」していることの方が、記録
としては意味がある。(中略)

その人のもの考え方、生き方の中に
五〇年前、一〇〇年前は体現されて
るのであり、それをとらえることが記
録なのである。——

『平島放送速記録』(1975年)
「序文からの板書き」

若者は高らかに唱えあげた。いま老
いて読み返してみると。なんの異和
もない。そのことをハジてもない。
胸を張るでもない。『速記録』
の行間を読むと、こゝに「いま」の奥
行きを知ろうと思ふ。

こゝいう作業は歴史家がやて

「フェリーヒシマ」を待つ
左から 利率、尚、看美、峰一(いし向き)
2008.6.5.

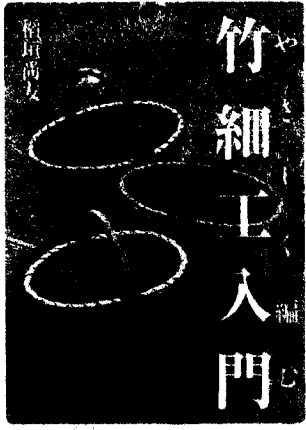


PHOTO 稲垣 涼 於平島

いるのかも知れない。光栄なことに著者
はその歴史の中に生きていたのであり、
その舞台裏は知りつくしているはずで
ある。「南國語リ」のオミロ以降は
そうした掘削作業が始まること
になる。

これまた、えび期待だ。





「竹細工入門」 日貿出版社
 写真 荒川健一 著 于中 銀士
 編集 鈴木尚 金子 暁仁
 葛城 真佐子
 © Shigeo Inoue
 nichibu.co.jp
 http://www.nichibu.co.jp/

新刊 あんない
 こんなに写真本を多く載せた手法書は見たいと思わない。竹細工をやりたい人のための本来の書である。この一書があればカゴ屋になれる、とまでは言えなくても、カゴ編みが身近に感じられること、間違なし。あとから三年にわたる著作節を超えての発刊である。

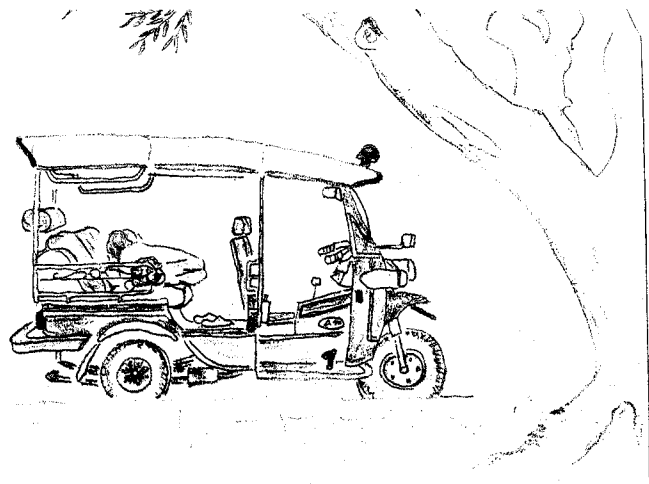
- 「平島放送速記録(一)」 (CD 版本)
- 「東シナ海の贈与」 (CD 版本)
- 「日流境界の島-四国島の手当金制度」 (CD 版本)
- 「稻土巨尚友作品集I-地図から落した島」
- 「埋(いず)み火」
- 「十七年目のトカラ」
- 「裏林の中の書齋」

- NJS 出版
- NJS 出版
- NJS 出版
- 国土記
- 水戸ん社
- 鳥(はくろ)社
- 鳥社

世の中、捨てたものじゃない。良書がゾクゾクと出る。
 「平島放送速記録(一)」 CD 版が出る。
 間に合わせは NJS から出版へ。
 既刊本もあわせて左に記しておく。

NJS 出版 E-mail nis.imagaki@gmail.com
 TEL 050-3674-8449 FAX 0422-38-8455

クエニマイ (タイ) 駅前 トラクトバイク 2001年2月6日



クエニマイ駅前